



秋田県  
農業委員会大会



新穀感謝農民祭  
並びに開会式



# 北秋田の大地に人々集う

## 「農業の祭典」に71万1000人



### 第133回秋田県種苗交換会

「北秋の大地に集え、農“の夢”をキャッチフレーズに第133回秋田県種苗交換会（主催・秋田県農業協同組合中央会、協賛・北秋田市協賛会）が10月30日～11月5日までの日程で北秋田市を会場に盛大に行われました。当市では、平成4年に旧鷹巣町で開催されて以来18年ぶりの開催となりました。

主会場の鷹巣体育館をはじめ、第2協賛会場となった苗畑跡地、北秋田市文化会館、北秋田市交流センターなどでは、連日様々なイベントが開催され、県内外から71万1000人の参観者でにぎわいました。

7日間にわたる種苗交換会は、北秋田市を県内外に広く発信するとともに、農業の次代を担う生産者と市民の心に残る農業の祭典となり、大きな成果を残して終了しました。

### 初日から多くの参観者が来場 華々しく開幕

10月30日、大勢の農業関係者や来賓が見守るなか、木村一男・第133回秋田県種苗交換会会頭をはじめ、津谷永光・北秋田市協賛会会長、佐藤吉次郎・市議会議長、津谷奈々乃・鷹巣小学校金管バンド部長らが、主会場の鷹巣体育館前でテープカットを行い、鷹巣小学校金管バンド部の演奏で参観者らを迎え、7日間にわたる種苗交換会が華々しく開幕しました。

このあと、新穀感謝農民祭並びに開会式が北秋田市文化会館で行われました。開会式で木村会頭は「食と農への理解を深めていただきながら、消費者と生産者の信頼を築く場となることを期待するとともに、開催地北秋田市の豊かな自然や文化にも触れていただきたい」などと式辞。

続いて、協賛会会長の津谷市長は「種苗交換会を介して県内外から農業関係者が一堂に集い、これからの農業農村の進むべき方向性を話し合う機会を得ましたことは誠に意義深い。生活の根幹である健全な食生活を支える農業の価値や、正確な情報を消費者に分かりやすく提供し、信頼関係を強めるよい機会と捉え、地域農業の再生へと発展させることができればと考える。更には商業、工業とも交流を深め、地域活

性化へ向けた相乗効果を大いに期待しております」などと歓迎のあいさつを述べました。

主会場では、交換会のために心を込めて育て上げた農産物2158点が出品されました。会場に詰めかけた参観者は、素晴らしい出来栄の水稲や山の芋、ナス、椎茸など高品質な農産物の数々を熱心に見学していました。

### 連日、各種大会で 農業の未来を語り合う

10月31日、秋田県種苗交換会談話会が北秋田市交流センターで行われ、米の生産や流通にかかわる関係者などが参加して「時代のニーズに応える売れる米づくりの推進について」意見が交わされました。

11月1日、第54回秋田県農業委員大会が北秋田市文化会館で行われ、約600人が参加し、各種表彰が行われたほか、国や県などの農業政策への要望などを決議しました。

11月2日、第68回秋田県NOSA I大会が北秋田市文化会館で行われ、約300人が参加し、NOSA Iの役割を再確認し、秋田県農業の発展を誓いました。また、第38回秋田県土地改良事業推進大会が合川体育館で行われ、約1000人が参加し、土地改良功労者の表彰や農業農村整備事業予算獲得などの大会決議を行いました。



全県から医療関係者が集まった  
農村における健康を考える集い

11月3日、第51回農村における健康を考える集いが北秋田市交流センターで行われ、約300人が参加し、地域医療連携の充実と訪問介護の重要性について理解を深めました。また、クボタ民謡お国めぐりの特別公開録画が北秋田市文化会館で行われ、市民ら約600人がプロの歌い手による民謡を楽しみました。合川体育館では、田んぼの生きもの調査全国大会in秋田が開かれ、約450人が、地域農業の大切さや生きものとのつながりについて理解を深めました。

北秋田市中心公民館では、北朝鮮に拉致された日本人を救出する秋田の会北秋田ミニ集会が行われ、約120人が参加し、日本人拉致問題の理解を深め、一日も早い救出を願いました。

最終日の11月5日、第29回秋田県産米改良品評会表彰式が北秋田市交流センターで行われました。また、交換会褒賞授与並びに閉会式が北秋田市文化会館で行われ、受賞者に褒章が授与されました。